

1 審議会名	上田左岸地域協議会
2 日時	令和5年8月17日 午前10時から
3 会場	城南公民館 大ホール
4 出席者	赤堀委員、浅川委員、小林委員、小山委員、田中委員、田村委員、西入委員、羽田委員、松田委員、宮坂委員、宮崎委員、宮下委員、安江委員、山田委員、和田委員
5 市側出席者	【事務局】滝沢城南地域振興政策幹、間宮塩田地域自治センター長、藤沢川西地域自治センター長、遠藤地域振興政策幹、竹花課長補佐兼地域内分権推進担当係長、滝澤地域内分権推進担当主査、城下地域内分権推進担当主査、清水地域内分権推進担当主任、芳池地域内分権推進担当主事 【住宅政策課】木内住宅政策課長、清水課長補佐兼住宅管理係長、小林空家対策係主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年8月21日

協議事項等

1 開会

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 住宅政策課による施策説明

住宅政策課から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員) 地域の産業振興をテーマに分科会で協議を行っている。空き地、空家を利活用して地域活性化に結び付けたいというのがテーマの1つになっている。市で空家を買収することはあるのか。マルシェや地元特産品の販売拠点として使う方法はないか。

(住宅政策課) 空家に対して A ランク (修繕なく利活用が望める) から C ランク (ほとんど利活用の見込みがない) までランク付けをしている。A ランクについては空き家バンク制度で研究していきたいところだが、空家を買収するところまではいかない。長野県宅地建物取引業協会と協定を結んでおり、利活用に結びつくような協力を得られる体制を取っている。

基本的には個人の財産なので、本人の意向も確認しながら利活用を進めて行く。

一部自治体ではカフェやレストランに利活用しているところもある。国の方針もあるので、利活用される方の目的があれば建物所有者との協議の間に入って、協力させていただくことによって、地域の活性化につながれば地元にとっても、当課にとってもプラスの結果になる。

(委員) 自治会所有ではなく、下部組織の常会で使っていた建物があるが、屋根が崩壊して危険な状態である。解体補助事業を適応していただくことはできないか。

(住宅政策課) 危険空家について、補助金の交付については交付要綱によって定められており、基本的には住宅に使われていた空家に適応される。今の内容だと補助金の適応は難しい。建設時も積立金等を使ったので

はないか。老朽化を見据えて解体や修繕に対する積立もしていく必要があると考える。解体業者と連携もしているので、必要であればご相談ください。

(2)分科会協議「第1分科会」「第2分科会」「第3分科会」

上田左岸地域の課題について

分科会ごとに分かれて意見交換

【第1分科会：自治・まちづくり】

調査・研究テーマについて協議

全体会における空家対策事業の概要説明に引き続き、上田市が進める空家対策の現状や課題について情報共有を行った。低価格であってもすぐには住めない物件の状態の悪さ、仲介手数料等の民間取引でのインセンティブの低さ、相続の難しさ等々、売買及び賃貸がなかなか成立しづらい状況を確認した。また、特定空家及び管理不全空家へのアプローチなど、国や地方自治体が進める制度改正などについて認識を深めた。

【第2分科会：子育て・福祉・教育】

調査・研究テーマについて協議

地域づくり総合センター事務長の池谷道英氏から「長野大学地域づくり総合センターの役割と地域との関わり」について説明

以下、説明内容

- ・当センターは地域と大学を結ぶ窓口となっている。
- ・地方大学が生き残る道として、地域にとって必要不可欠な大学を目指し、地域定着を強化する。
- ・地域企業とのマッチングや地域ボランティアの受入及び学生の派遣、地域課題解決のミッションを行いながら、お互いに成長することを目指す。
- ・近年は対面での活動に恵まれていなかった。新型コロナウイルスの影響で活動の期間が空いてしまってボランティア活動が減少したが、最近は戻りつつある。
- ・先輩から後輩への活動の承継も途絶えてしまっているのもあり、リスタートとして新たにに取り組むことも必要である。
- ・公立化後、県外学生は3割から7割に増加した。
- ・昨年卒業した者のうち、42～43%が長野県内に就職した。今後も県内定着を増やしていきたい。

以下、意見交換

(委員)川辺泉田地区において「TEAM まちづくり」(中村ゼミ)が地域の活動に参加しており、9月に「むかしあそび」のイベントを進めている。

(委員)11月には漢(おとこ)食堂を企画しており、長野大学OBもチームに入っている。

(委員)学生はよい意味で正直で、率直な意見が聞けるのも魅力である。

(委員)地域で活躍していただいているが、継続性の問題、学生は4年で卒業してしまうため、どのように後輩へ伝えていくか学生も悩んでいる。

(委員)福祉を学んでいる学生は、授業の一環(単位の取得)として福祉施設等でボランティア活動をすることはできないか。

(事務長)実習として行ってはいるが、ボランティア活動を単位認定として以前に検討した経緯あるが、決定はされていない。

(事務長)興味をもってボランティア活動へ行っても、自分の役割がわからない学生もいる。学生をどう活用

していくか依頼側が明確にしないと困ってしまう場合もある。依頼するにはターゲットを絞った方が、それに対応できる先生、学生が参加しやすい。

(委員) 敬老園の夏まつりでは、目的がはっきりしていたので学生がいきいきしていた。

(委員) 塩田まちづくり協議会のかかるたづくりにおいては、学生、教授に多大な御協力をいただいた。企画の段階から参加していただいたことがよかった。この活動も授業の一環として認められれば互いに助けになるのではないか。

(事務局) 今年度の観光、まちづくり関連のボランティアは既にいっぱいのため、参加したい活動があれば、できるだけ早めに話をいただきたい。

(委員) 社会福祉協議会ではフードドライブでいただいたものを管理している。これは大変なことなので、学生の力を借りられるとありがたい。

【第3分科会：産業・地域振興】

調査・研究テーマについて協議

以下、農業政策課と住宅政策課から施策の説明を受けての主な意見

(委員) JAの方から、上田左岸地域において大豆がブランド化になり得ること、この地域の土壌もよいということを知った。好条件をPR不足で活かしきれていないことを実感した。住宅政策課から空家の利活用について前向きな話を聞いたので、意見書に反映できればと考えている。

(委員) 農業政策課から「信州上田なないろ農産物」の冊子の提供があったが、上田左岸地域版があればよいと感じている。そこには、組合や有志など生産者情報も載せたい。

(委員) 住宅政策課の話を聞いたが、空家情報に関するマップがあれば借り手にも親切だと感じた。インターネット上で情報を確認したが、更新されていないのではないか。ここには先程話があった、空家の状態の情報もあればなおよい。上田左岸地域は、青木経由で松本へのアクセスが良くなれば、人が集まる地域になると思うので、先を見据えた取り組みが必要である。

農業政策課からの話で感じたことは、こうじいらず、ナカセンナリなど地域ブランドとしてPRしていくには、対象を絞った方が効果的であるということ。大豆は健康長寿食品なので可能性はあるのではないか。

(委員) PR方法など、地域協議会として市の施策を後押しする提言ができればよいと考える。皆さんの意見を聞き、ナカセンナリの生産者情報を集めていきたい。

(委員) 農業政策課からは売物、住宅政策課からは売り方について部局をまたいで横断的な話が聞けた。課題は、遊休地の活用も空家の利活用も一体誰がやるのかということ。これを調査することも必要だと考える。

4 その他

(1) 次回の開催予定

日時 9月21日(木) 午後1時30分から

場所 塩田公民館 大ホール

(2) 令和5年度 まちづくり講演会について

5 閉会